

令和7年度 算数科 授業改善推進プラン

大田区立萩中小学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・習熟度別にクラス分けし、授業展開したことで、個々の児童に合わせた課題を提示し取り組ませて、知識・技能面での習得ができた。
- ・朝学習や放課後補習等で継続的な取組によって、学習に対する姿勢が改善された。

(2) 課題

- ・基礎基本の定着が不十分である。
- ・問題に対して自身の考えを構築したり、相手に考えを伝えたりする能力の低下がみられる。(思考力不足)
- ・文章題の文意を捉えて、条件に合わせて解く力が不足している。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

	令和7年度結果	令和6年度結果	令和5年度結果
第4学年	目標値より↓		
第5学年	目標値と同程度	目標値と同程度 (第4学年時)	
第6学年	目標値より↓	目標値より↓ (第5学年時)	目標値より↓ (第4学年時)

(2) 分析（観点別）

① 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
○「大きい数」「分数の仕組み」「繰り上がり複数回のたし算」「繰り下がりひき算」「時刻と時間」に課題がある。	○「□を使った式」「余りあるわり算」「長さ・重さ」に課題がある。	○苦手意識が強いため、問題に対する取り組み方に課題がある。 ○わからない問題への対処の仕方に課題がある。

② 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
○「小数のわり算」「四則混合算」「分数の計算」「四角形など、図形の性質」「整数の仲間分け」「割合」に課題がある。	○「小数の計算」「計算のきまり」「概数」「整数の仲間分け」「多角形と円・合同」「立体と体積」「円グラフ・帯グラフ、平均」に課題がある。	○苦手意識が強いため、問題に対する取り組み方に課題がある。 ○わからない問題への対処の仕方に課題がある。 ○自分の考えを広げたり、深めたりする取り組み方に課題がある。

3 授業改善のポイント（観点別）

（1）低学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
○たし算、ひき算、九九などの数の概念については、具体物や図絵などを用いて継続的に学習する機会を設けて、基礎的、基本的な知識や技能の定着を図る。	○数学的な見方や考え方の幅を広げるために、児童同士の交流の場を意図的に作る。算数用語をなるべく用いてわかりやすく相手に伝えられるような表現ができるようにする。	○日常生活の場面を思い出したり、ゲーム的要素のある学習活動を行ったりして楽しみながら繰り返し学習できるようにする。 ○身の回りから課題を見だし、具体的な活動を通して、長さや量、時間など量感をもてるようする。

（2）中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
○九九や繰り下がりのあるひき算、小数の計算などドリルやタブレットのソフトを使い、継続的に計算問題を行うことで、基礎的、基本的な知識や技能の定着を図る。 ○直線をかいたり、円をかいたりするなど、普段から定規や分度器、コンパスなどの道具を使用する場面を設け、基本的な使い方を身に付ける。	○まとめ、振り返り等、自分で考えて言語化したり、既習事項を活用して問題を解決したりする。 ○交流する場面を意図的に設け、自分の考えた解き方を図や式を使って言語化し、友達に説明できるようにする。	○日常生活の場面を思い出したり、ゲーム的要素のある学習活動を行ったりして楽しみながら繰り返し学習できるようにする。 ○身の回りから課題を見だし、具体的な活動を通して、長さや量、時間など量感をもてるようする。 ○交流の場を意図的に設け、自分の考えを相手に伝える機会を増やすことで、自分の考えを理解してもらうようとする態度を養う。

（3）高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
○小数や分数を含めた四則計算が確実に解けるように、朝の学習や補習等、継続的に計算問題を行い習得できるようにする。 ○図形の性質を覚え、性質を活用して作図できるように、問題演習を繰り返し定着を図る。	○まとめ、振り返り等、自分の言葉で表現し、既習事項を活用して問題解決できるようにする。 ○交流する場面を意図的に設け、自分の考えた解き方を図や式を使って言語化し、友達に説明したり、友達の考えを聞いて自身の考えを再構築したりできるようにする。	○文章題を図絵に置き換えたり、ゲーム的要素のある学習活動を行ったりして楽しみながら繰り返し学習できるようにする。 ○文章問題を日常生活の場面に置き換えて問題を捉えられるようにする。 ○交流の場を意図的に設け、自分の考えを相手に伝える機会を増やすことで、自分の考えを深めようとする態度を養う。